

県研究主題

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

提案 1

提案者 沖津 雅俊（足柄上・足柄下地区）

<研究主題>

道徳的価値の深化をめざした指導のあり方 ～生徒の発言力を生かして～

1 提案内容

松田町では「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」の指定を受け、幼小中連携教育とも関連付けて研究を進めている。松田小では「見て聞いて考えてつなぐ」をスローガンに発言力のある児童を育てる授業づくりをしている。その生徒達が入学してくる松田中ではそれを踏まえて、サブテーマに「生徒の発言力を生かして」と設定した。

(1) 研究の概要と実践

指導方法の創意工夫として、①読み物資料の利用 ②「話し合い」活動の工夫 ③書く活動の工夫の3点を中心に研究した。

① 読み物資料の利用

「きらめき」だけではなく、「悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解」等についての題材を取り入れる工夫をしている。

② 「話し合い」活動の工夫

生徒の意見や本音を引き出しやすくする工夫として、グループエンカウンターやワールドカフェ方式の活用を行った。

授業実践① 1年生グループエンカウンターを使った授業

- ・「友だちへのありがとうメッセージ」2-(6) 感謝

自分の事を友人が良く見ていてくれることへの喜びがあり、終始温かい雰囲気であった。振り返りで前向きな感想や生徒の変容が見られた。

授業実践② 2年生ワールドカフェを使った授業

- ・「猫ひろしさんのオリンピック出場」4-(9) 日本人としての自覚  
発問を変えると、同じ事実でも感じ方や考え方が違ってきた。

- ・「カーテンの向こう」2-(2) 思いやりの心  
切り返しの発問で自分の事として考える深化が見られた。

③ 書く活動の工夫

自分のものの見方・考え方・感じ方を振り返ることができるよう、ファイリングをさせておく。また、ワークシートへのコメントや学級通信での生徒の意見の共有化により生徒の変容に資することができる。

## (2) 研究の成果と課題

①生徒の実態に応じた資料の精選～悩みや葛藤など、心の揺れを積極的に取り上げる。

発問の工夫をワークシートでしたり、「オープンエンド」や「クローズドエンド」での終わり方などを工夫した。

②「話し合い」活動の方法を工夫

グループエンカウンターでは感情の交流を中心に考えた。ワールドカフェでは少人数グループでの自由対話による相互理解、集合知の創出を目指し、紙に書き、グループを移動していく方法で意見交換をした。

③「書く活動」の工夫

自分の意見を表現することで本音を出し合い、価値について深化させることができた。

## 2 協議内容

発表者に対する質問や意見を出す形で行われ、次の二点を中心であった。

(1) エンカウンターや、ワールドカフェなどの良い点や、課題について。

・エンカウンターでは直接顔を見て話すことが出来る。しかし、グループの人数によっては深まらないことがある。学年全員での「ありがとう」キャッチボールもした。友達からの感謝がうれしい、感謝を伝えられたことがうれしい。担任はできるだけほめる。

・ワールドカフェでは意見を言えない子も小グループであるので、言ったり書いたりできる。本音を出すための有効なワークショップになる。しかし、人数は4人位が効果的である。また、グループを移動する際、ルールを決めて一人は残すようにした方が良い。3回まわれば、全員と話したような気分になる。

・同様な取り組みとして4人で小ホワイトボードに4色ペンで意見を書き共有化している。

(2) 年度を越えた取り組みは難しいのでは。年間計画とのかかわりは。

・日常の授業では、一斉授業も、エンカウンター（年2～3回）も、ワールドカフェもある。ワールドカフェのあとの一斉授業で、より道徳的価値の深化が見られることもある。生徒の実態に合わせて年間計画を入れ替えることは可能。4月に生徒の実態を見抜くのは難しい。年度を越えた継続的な取り組みは難しいが、研究の重要な一環として継続的に行ってきた。

## 3 まとめ

松田中学校の素晴らしいところは、まず年間計画を毎年見直して更新していること。また、各教科の別様があり、補充・深化・統合を図るための工夫がなされている。安易な変更はなされていない。2番目は実態に合った読み物資料の精選をしていることである。読み物資料の良さは主人公を限定し、共通の土俵で考えることができること。また、読み返しながら自分の体験に照らして考えられる。1時間で扱う道徳的価値は一つでなければならない。将来に生きる内面的資質を育むことができる。3番目は教師が適切な指導・助言を行い、話し合い活動をしていること。話し合い形態の工夫がされている。切り返しの発問でより効果的に生徒一人一人のものの見方や考え方を深めていくことが必要。また、板書を活用し、中心発問は最も考えさせたものを持ってくるようにし、構造的に授業をつくるようにするとよい。

**<研究主題>**

道徳の授業における「言語活動の充実」～川崎市中学校学習指導事例集の取組について～

**1 提案内容**

川崎市立中学校教育研究会道徳教育部会では、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む道徳教育の推進」という研究の重点のもと、川崎市のすべての中学校教員が新しい学習指導要領の内容に基づいて授業を実践できるよう、「教育課程研究会による研究実践の発表」「夏季道徳授業研修会の実施」「小・中学校合同道徳教育研修会の実施」「中学校学習指導事例集の編集」等を行っている。今回の報告では、中学校学習指導事例集による「言語活動の充実」の取組に焦点をあてて提案する。

**(1) 道徳における言語活動の充実について**

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成にむけて～」より。

**(2) 中学校学習指導事例集「道徳」について****①川崎市学習指導事例集について**

自分の考えを書いたり討論したりするところを中心に事例の報告。毎年まとめている。

**②中学校学習事例集「道徳」の編集の工夫**

「実践研究編」「総括内容編」で構成。誰でも授業実践できるように工夫。

- ・資料の分析→ねらいを把握しやすいように図式化している。
- ・生徒の発言も取り上げ授業の流れが見えるように授業記録を載せている。

**③過去10年間の学習事例集「道徳」に掲載されてきた研究内容一覧**

- ・5つの配慮事項及び4つの学習環境
- ・新学習指導要領の内容を概ね網羅
- ・話し合い活動を活発に行いながら内容項目に迫る授業展開
- ・授業実践できるための工夫

**(3) 言語活動の充実に関わる事例について**

①模擬体験を取り入れることにより生徒が自分自身を振り返り、話し合いの中で生徒の考えの変容が見られる実践例

【資料名】優先席（神奈川の道徳 きらめき1）

【主題名】よりよい生き方をもとめて 1－（4）

- ・主人公の疲労感、荷物の重たさを模擬体験を入れることで主人公の状況を考えながら発言するようになった。自分事と捉えるようになった。（Mさんの変容から）
- ・終末で江戸しぐさの絵→身近に感じさせる。

②ワークシートを効果的に使い、話し合いでの考えの変容を書く活動を通して自分を振り返る中で実感していく実践例～体験活動やスライドを補助資料とした授業の実践例（平成20年度版）

【資料名】「車いすの少年」（日本文教社刊 明るい心と生活）

【主題名】思いやりの心 2－（2）

- ・道徳性アンケートから重点項目を設定。

・自分自身の振り返りができるようなワークシートの工夫。

しさんの変容から「常識のない人たちだ」→「その人のことを考えて行動すること。自分自身で困難を乗り越えさせるのも優しさ」

### ③グループ活動で話し合いを活発にさせる実践例

【資料名】生協の白石さん（講談社刊）

【主題名】感謝・思いやり 2－（2）

・グループごとに課題を解決するための話し合い活動中心に授業を行った。

## （4）成果と課題

○中学校学習指導事例集の実践を「言語活動の充実に関する指導」という視点で再度分析。

【再構成の視点】

①話し合う場面を工夫する中で、生徒が、お互いの考えを知り、自らの考えを深めていく機会をつくっていくこと。

②ワークシートなどに書く活動を通して生徒が、自分の考えを整理し、発表を通して自分の感じ方や考え方を明確にしていくこと。

## 2 協議内容

### （1）授業記録について

自分のテーマに沿って授業を考え実践。VTRでは聞き取れない部分があることから記録に残した。必要な意見などピックアップして掲載。授業の展開が分かりやすい。

### （2）資料と著作権について

自分で開発した資料については著作権の確認を行っている。

### （3）資料の図式化について

資料分析を図式化して掲載しているのは分かりやすい。誰でも授業実践できるように工夫。

### （4）各授業展開について

#### ア「優先席」

・終末に江戸しぐさを取り入れていることで、本時のねらいとズレが生じてはいないか。

本時のねらいが、「真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の生き方を切り拓いていく態度を養う。」1－（4）となっている。自己の人生を切り拓いていくにはどうしたらよいか、日本人の生き方の姿勢を示したらどうか考えた。

#### イ「車いすの少年」

・この実践校では学校のアンケートから「思いやり」が課題だった。

#### ウ「生協の白石さん」

・自分で考えた資料。グループ学習での取組。いろいろな考えに触れられるように、6つのグループが別々の課題に取り組んだ。

## 3 まとめ

○新学習指導要領で改善点が指摘されている。子どもがいかに関心を持ち、自分の思いを語るか。「道徳の時間」の中で思いを語るができる人間関係にあるかが大切。きちんと発言が尊重される学級経営を全ての教育活動の中で認める対応をし、友達の意見も聞き、自分の考えも述べることを成果につなげていく。

○小さなことを一つひとつの積み重ね、思いや願いを相手の考えをよく聞き、咀嚼し自分の言葉で話し、キャッチボールすることが道徳である。